

平成 29 年度 第 37 回 JANS 若手研究推進委員会「若手の樹」企画報告

JANS37@仙台 (2017 年 12 月 16 日～17 日)

第37回日本看護科学学会学術集会では、昨年に引き続き、若手ネットワークサロン「看護の未来を一緒に創造しよう！（パート2）」を開催しました。今年度は、昨年の内容をバージョンアップして、3本の「若手の樹」を設置しました。今回作成した3本の「若手の樹」は、①未来への希望と提案（研究、臨床、教育、看護に携わる人としてなど）、②研究活動紹介（現在取り組んでいるテーマや今後取り組みたいテーマと簡単な内容の紹介、仲間や場・機会の募集など）、③ワークライフバランス～みんなどうしてる？私の工夫～です。

昨年、東京で芽吹いた「若手の樹」は、杜の都、仙台の地でさらに117枚の葉を広げ、全国の若手研究者・実践者たちの背中を押してくれるのではないのでしょうか。なお、記載頂いた内容は、ホームページやメーリングリストなどを介して発信することの承諾を事前に得ております。

①未来への希望と提案

研究・教育・臨床の3つのBranchで、未来への希望と提案が行われました。

<Branch 研究>

若手研究者・実践者たちは、「**枠組みにとらわれない自由な発想を持ち続ける**」ことを意識ながら、「**対象者とその日常の暮らしに届く研究をする**」ことを目指していました。また、未来に向けて「**創造的・革新的な看護学研究成果を約束する**」ことを目標に掲げていました。これらの葉を充実させるためには、「**一人前の研究者を目指して次のステップに進む**」ことが大事であると認識し、「**学位を取得する**」という強い意思を表していました。

<Branch 教育>

研究・教育・臨床の3つのBranchは個々に存在しているわけではありません。若手研究者・実践者たちは、「**研究と教育を循環させる**」ことの重要性を意識しながら、「**生み出した知を次世代に繋ぐ**」という大きな志を持っていました。そして、自らの知や働きかけによって「**プラスαのある看護師を育てる**」という意気込みを持っていました。「**枠組みにとらわれない自由な発想を持ち続ける**」ことを目指す若手研究者・実践者たちは、教育においても、「**自由にワクワクした教育を実践する**」ことを願っていました。

<Branch 臨床>

看護学研究的創造と革新を目指す若手研究者・実践者たちは、「臨床と乖離のない研究をする」という意識を常に持っていました。そして、自らの看護実践を「健康障害を抱える人々を支える看護師になる」という言葉で表現していました。昨今、医療分野における AI の活用が進み、AI を活用した看護業務（記録、情報整理分析等）の研究も見られるようになりました。若手研究者・実践者たちは、それらを活用するとともに自分たちの強みにも目を向けて、「人と人の関わりが重要視される看護職だからこそ頼りにされる看護師になる」と宣言していました。

未来への希望と提案



②研究活動紹介

研究目標・研究テーマの2つのBranchで構成されました。

<Branch 研究目標>

若手研究者・実践者たちは、『**看護の中で省察的実践をもっと共有していきたい**』や『**看護にマインドフルネスを。教育・臨床の未来が変わるはず**』と意気込んでいました。そして、『**データ収集を頑張ります**』、『**2018年は研究発表します**』、『**毎年研究論文を書き上げたい!**』といった具体的な目標を掲げていました。

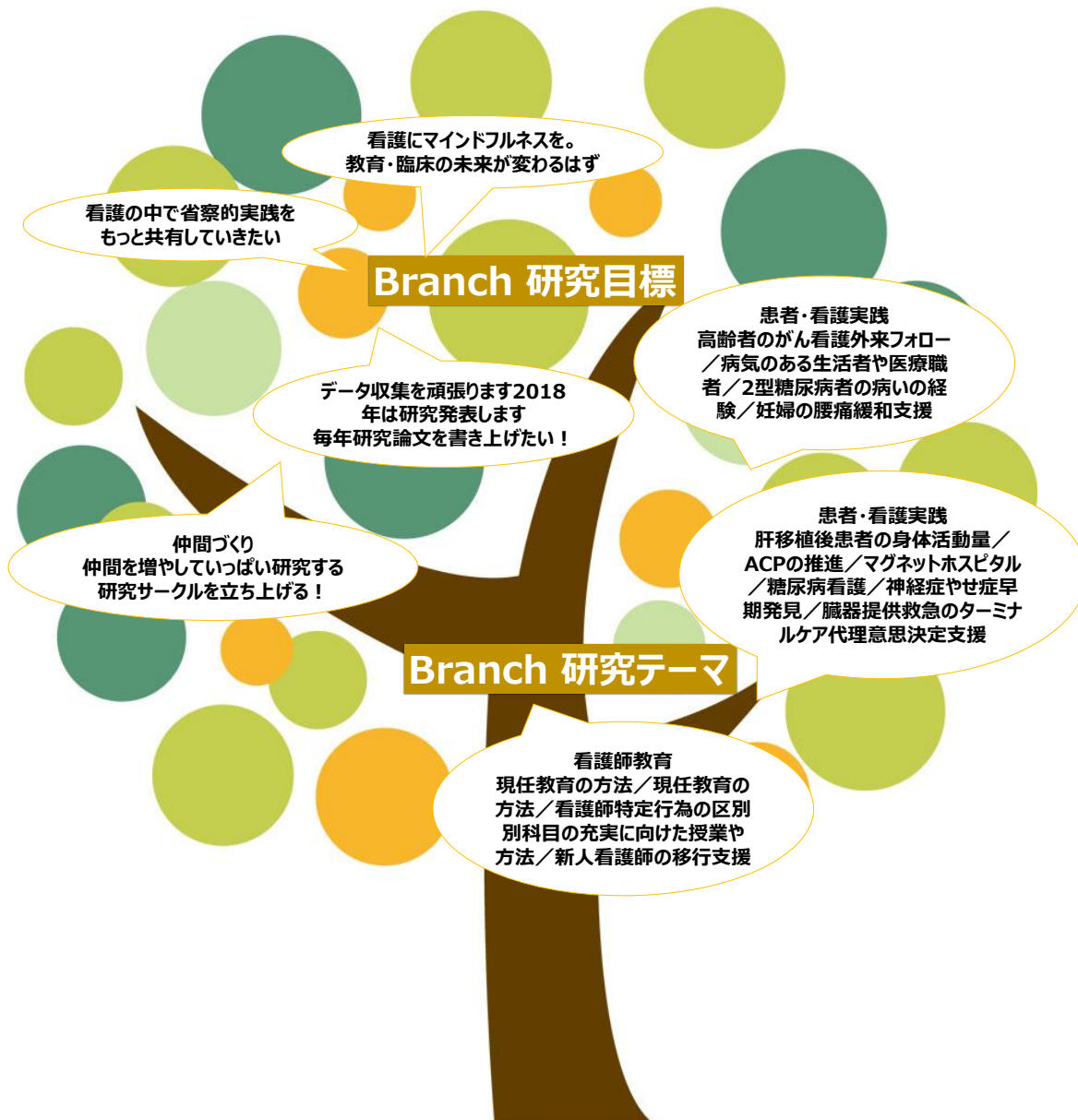
また、『**仲間を増やしていっぱい研究する**』、『**研究サークルを立ち上げる!**』といった「**仲間づくり**」も宣言していました。

<Branch 研究テーマ>

ここでは、私たちの研究意欲を高めてくれる多様で斬新なテーマが寄せられていました。

- 🌀 **患者と看護実践**：『高齢者のがん看護外来フォローについて』、『病気のある生活者や医療職者のことへの研究』、『2型糖尿病患者の病いの経験に関する現象学的研究』、『妊婦の腰痛緩和実践と研究』、『肝移植後患者の身体活動量の測定』、『ACPの推進』、『マグネットホスピタル』、『患者教育、糖尿病看護をベースに、地域包括ケア時代の看護のあり方』、『神経症やせ症（拒食症）早期発見に向けた研究』、『臓器提供救急のターミナルケア代理意思決定支援』
- 🌀 **看護師教育**：『現任教育の方法について』、『看護師の教育力について』、『看護師特定行為の区別別科目の充実に向けた授業や方法について』、『新人看護師の移行支援』

研究活動紹介



③ワークライフバランス

若手研究者・実践者たちは、仕事と私生活のバランスを保つために、プライベートを充実させたり、仕事と私生活を上手に両立させたり、仕事を継続していくための様々な工夫を行っていました。私生活の充実、仕事と私生活の両立、仕事を継続していくために、の3つの Branch で構成されました。

<Branch 私生活の充実>

☞ パートナーを大事にしたり、1日1回子どもと『大好き』と言い合ったりして「**家族を大事にすること**」

☞ 夫を褒めながら家事能力を高めたり、家族それぞれを自立させたり「**家族の力を育てること**」。特に育児休暇中に育てることが大切。

☞ ゆっくりお風呂につかったり、おいしいパン屋さん巡りをしたり、映画の世界へ入り込んだり、スノーボードを滑ったりと遊ぶ時間を確保して「**プライベートを大事にすること**」

<Branch 仕事と私生活の両立>

☞ 休日の楽しみのために平日がむしゃらにがんばったり、22時までには帰って寝たり、子どもと遊ぶことで気持ちを切り替えたりして「**オンとオフを切り替えること**」

☞ 家族でも職場でも『ありがとう』を事あるごとに言葉で伝えて「**周囲に感謝すること**」

<Branch 仕事を継続していくために>

☞ (論文を) 1日3行コツコツと、細々と続けて「**一步一步少しずつ前に進むこと**」

☞ 家事を業者に任せたり、自宅と保育園・学校と職場の物理的距離を小さくしたり「**資源をうまく活用すること**」

☞ 睡眠をとって体調を崩さないように「**健康第一で元気に頑張ること**」

ワークライフバランス

